

# 経

済が豊かになり、生活の中には物があふれ、子どもたちは高価なテレビゲームなどのおもちゃで遊ぶ時代。これはこれで幸せな時代なのだが……。

その昔、子どもたちは学校帰り、よりみち〆をして、道端の木の枝や、石ころなどを拾って遊んだものだ。豊かな想像力と発想で、曲がりくねった木の枝が、飛行機〆になり、いびつな石ころは、ロボット〆になったりもした。

何も無い時代だったかもしれないが、子どもたちには笑顔があふれていた。

今の時代の子どもたちにもそれを知ってもらいたい。そんな想いで、活動をしている

画家・アーティストが、今回ご紹介する羽中田桂子さん（竜岡町）だ。

羽中田さんは、普段は絵画教室を主宰しているが、この他にもボランティアで子育て支援センターや各種イベントでアートイベントなども行なっている。また最近では、駅前商店街における市と協働したシャッターアートの取り組みを手がけるなど、アートを通じて蕪崎を元気にする活動を展開しているアーティストだ。

「蕪崎を元気にすると言っても、地域の活性化といった大きなことは考えていない。ただ、今自分の目の前にいる子どもたちに笑顔を分け与え

てあげたい。」と羽中田さんは話す。小さな取り組みから、笑顔の輪が広がり、蕪崎という街が経済という尺度では計りきれない、心の豊かな、笑顔あふれる街になってもらいたいそうだ。

子育て支援センターで定期的に開催している、よりみち



## シリーズ ならさきを元気にする人たち④

# 画家・アーティスト 羽中田桂子さん 「アートで広がる笑顔の輪」

取材・記事 広報担当：歌田

アート〆は、道端に落ちているような物を材料にした工作体験教室。冒頭で述べた想いから始まった企画だ。

シャッターアートの絵は、蕪崎の民話が題材になっている。今はまだ数軒の軒先にしか描かれていないが、徐々に増えていって街全体が絵本のようになれば面白い。また制作する方々も増え、みんなで一つのことに取り組む機運が高まることも期待しているという。



商店街のシャッターアート

制作中は、商店街の方や、街を歩く方々が、声をかけてくれたり、差し入れもいただいたそうだ。

先日、地面をキャンパスにしたチョークアートイベントも実施した。普段はこんなことをすれば怒られるが、この日はかりは、大きな絵を自由な発想で描かせてあげた。大人も子どもも夢中になって絵を描いている姿がとても印象的だったという。

「私にできることは、アートの笑顔の輪を広げること。笑顔のあふれる街には人も寄ってくる。」と自然体で話す姿がとても輝いて見えた。羽中田さんの創る最高の作品は、みんなの笑顔なのかもしれない。



子どもたちによるチョークアート  
9月21日 蕪崎文化ホール祭り